

**田上理事** 構想で掲げた「地球規模の健康増進を推進する人材」を育成するにあたっては、抜本的な教育改革が必要になります。まず、入試から教養課程、学部専門課程、大学院までの一貫した教育改革を行います。そのため教育関連の部署を一括して統合教育機構を設置する予定です。

例えば、教養教育では徐々に2か国語履修を可能にしながら、人文社会科学系の科目を中心に全講義の英語化をできるだけ早期に導入していきたいと考えています。また現在既に選抜した学生に対しては、ヘルスサイエンスリーダーシッププログラム（HSLP）という少人数制で行う、完全英語履修のリーダー養成放課後プログラムを実施しています。

大学院教育でも大学院版HSLPの開講を検討しているほか、グローバルヘルスリーダー養成コースというカリキュラムを新設します。こちらでも完全英語履修ですが、海外からの留学生も広く募る計画です。将来的にはWHO（世界保健機関）などの国際機関の医療行政部門で活躍し得



**田上順次**  
理事・副学長  
(教育・学生・国際交流担当)

る人材を輩出し、卒業生の間でも国際的な人的ネットワークを確立できるようにすることが目標です。このような取り組みを通して、今後10年間で海外留学経験者や外国人留学生などを倍増する数値目標を掲げています。

**吉澤学長** 教育改革を進めるにあたり外国人教員の公募も重要な施策になりますね。続いて研究面での計画について森田理事にご説明いただきます。

**森田理事** 研究面で特に重視しているのは海外拠点との連携です。これまでも各国に根差した研究を推進してきましたが、今後は地球全体を視野に入れた研究体制を構築する必要があります。そこに地域の特長性を加えなければいけません。そこで重要になるのがフィールドワークです。その場所に行き、地域ならではの経済や環境なども含めてとらえることで地球規模の健康であるグローバルヘルスに貢献できます。

具体的な進め方としては、既にグ



**森田育男**  
理事・副学長  
(研究・国際展開担当)

ローバルヘルス分野で高い実績を持つている海外の大学と共同研究を進めます。この際、地域性に富んだ研究を手がける研究室ごと本学に加わってもらうユニット誘致という制度を検討しています。この制度で本学の学生たちも研究に参加したり、母体である海外の大学に留学してフィールドワークを実践することが可能になります。こうして世界規模でフィールドワークを実践する環境を整備し、TMDU型グローバルヘルスを研究面でも世界に向けて発信していきたいと考えています。

**吉澤学長** 国際的な医療の展開としてはどのような計画でしょうか。

**田中理事** スーパーグローバル大学創成支援には、「Think Globally, Act Globally」（地球規模で考え、世界で活躍せよ）と「Think Locally, Act Locally」（地球規模で考え、地域に合わせて行動せよ）という2つのキャッチフレーズがあります。HSLPでの少人数教育はこのうち前者を目指したものです。さらに本学には既に海外貢献に関する実績があり、ハ



**田中雄二郎**  
理事・副学長  
(医療・国際協力担当)

バード大学と提携したプログラムを経験した卒業生たちが海外で活躍し始めています。また、チリやタイの拠点で研究の芽が出始めた若手もいます。本学では、これら資産ともいえる海外で活躍する人材を組織的に支援する仕組みがありませんでした。

そういった人材を支援する仕組みの一つがジョイントディグリープログラムです。統合教育機構では、海外の人材支援を行うと同時に、世界規模での人的ネットワークを構築していきたいと考えています。

この事業は5年後に中間評価のタスキングを迎えますが、ちょうど東京オリンピック・パラリンピックの年になります。そうすると世界の注目が東京に集まりやすいでしょう。本学としても世界に発信するメッセージの意義も変わるはずです。

**吉澤学長** 皆さんありがとうございます。事業の推進にあたっては私のリーダーシップが重要といわれています。しかし、理事の方々が各分野で大いに力を発揮してくれているので心強く思います。ぜひ世界に冠たる東京医科歯科大学を実現していきたいと考えていますので、学内および関係者の皆様にもどうか協力をお願いいたします。



## 特集 1

## TMDU型グローバルヘルス推進人材育成構想 医学と歯学の強みを生かし 地球規模での健康増進に寄与

東京医科歯科大学は、文部科学省による大学の国際競争力を高める支援事業「スーパーグローバル大学創成支援（タイプA：トップ型）」に採択された。世界大学ランキングトップ100を目標とするタイプA：トップ型の大学には、大学改革による徹底した国際化の推進が求められている。東京医科歯科大学は、今後いかに国際競争力を高めていくのか、学長や理事に計画や目標を語り合ってもらった。



**吉澤靖之**  
学長

**吉澤学長** この度のスーパーグローバル大学への採択は本学の実績と強みが評価された結果であると考えています。世界を舞台に競争力を強化するタイプAに選ばれた13大学はそのほとんどが総合大学であり、特定の専門分野に特化した大学は本学と東京工業大学のみでした。総合大学と単科大学では規模も大きく異なります。にもかかわらず本学が選ばれたのは、医学と歯学からなる医療系の分野において世界でも十分な競争力を持った大学だと期待されているからでしょう。

私自身のリーダーシップに加え、教員や職員、学生まで含めて全学体制で大学の国際化を推進していきたいと考えています。

この構想の実現に向けたガバナンス強化として、これまでは個別に存在した国際関連の部署を一括した統合国際機構を設置する予定です。この機構を中心に、効率的かつ横断的にグローバル化を推進します。教育

改革や国際連携などの具体的な施策については各担当理事を中心に内容を考えてもらいました。まずは構想全体を取りまとめた鳥山理事に概要をお話しいただきたいと思っています。

**鳥山理事** 今回の事業の申請にあたって本学の強みを改めて考えたところ、医療分野に特化した大学であり、さらに海外拠点で教育・研究・国際貢献活動を推進している実績があるということに集約されました。

さらに、日本の大学として世界に貢献できることを視野に入れた際、日本は世界トップレベルの長寿国であり、国民皆保険をはじめとした保健医療の充実が挙げられます。本学と日本の医療分野の特徴を考えた結果、事業の目的として地球規模での健康増進への寄与を掲げるに至ったのです。

こうした考えの下、事業の構想名は、「TMDU型グローバルヘルス推進人材育成構想…地球規模での健康レベル向上への挑戦」としました。

**吉澤学長** 教育面での施策についてはいかがでしょうか。



**鳥山一**  
理事・副学長  
(企画・大学改革担当)



## ▶グローバル教育に携わる教員からのメッセージ

## Intercultural Experience and Problem Solving

Having a variety of experiences assists us in becoming leaders in whatever field we choose, because they help us make decisions and formulate ideas. One of these "experiences" should be collaboration with people from a different culture. Whether it is a community level or a governmental level project, working with people from other countries helps us to broaden our viewpoint, and hopefully lessen our biases towards others.

Since joining TMDU I have been able to utilize all of my past work experience from ward nurse, and in-house patient/staff educator, to volunteering at Tokyo Maternal and Child Welfare Office. All of

these experiences have been invaluable in assisting students to learn new skills, and teaching the importance of working as members of a team instead of individually.

Working towards a solution to problems requires us to think of solutions that are currently available and if they are not applicable to our problem, to look for a new solution. Doing this by oneself is possible, but by working in a group we can often come up with even better ideas. One of our department's goals is helping students to strengthen these skills.



ジャネル・モロス

Janelle Moross

1990年に来日し、東京都母子保健サービスセンターで外国人妊婦の指導・ケアにあたる。1994年から97年まで外国人妊婦のための保健事業委員会委員長を務めた後、東京医科大学の非常勤講師として医学英語教育に携わる。2008年より東京医科歯科大学非常勤講師となり、海外臨床実習準備教育と医学英語の授業を担当。2012年12月よりグローバルキャリア支援室特任助教、2014年2月より准教授として、医学科・歯学科のグローバル・コミュニケーションⅠ～Ⅲの他、保健衛生学科・口腔保健学科の専門英語教育やTOEFL集中特訓コースを担当している。

## Inquisitive Empathy

I am fascinated by people. As an anthropologist, I study what people say, what they think, and what they do. When I meet someone new, I want to hear their stories and see from their perspective. This kind of inquisitive empathy is a valuable characteristic for anyone interested in the pursuit of medicine. Whether engaged in frantic clinical settings or negotiating in the boardrooms of policy-making, it's easy to lose sight of the fact that health is an intimate human experience.

Health is not solely an expression of biological functioning, but is intertwined with, and therefore inseparable from, social experience. This means that something we

may perceive to be straightforward and even universal, menopausal hot flashes for example, vary from time to time and place to place. We teach our HSLP students that because health is the outcome of bio-social factors, they must first see from another's perspective, and in seeing, question what they assume to be true. It is with inquisitive empathy that they will be able to keep human experience at the center of solutions for global health challenges in the future.



レベッカ・カールソン

Rebecca Carlson

2004年に米国テンプル大学大学院フィルム・メディアアート研究科修士課程、2006年に同大学大学院人類学研究科修士課程を修了。ピッツバーグ大学大学院人類学研究科博士課程に在籍しつつ、2013年に来日。日本の大衆文化に興味を持ち移住してきた人々を対象とした研究を行っている。教育面では、2001年よりメディア芸術、社会学、文化人類学の指導歴があり、2014年5月よりグローバルキャリア支援室特任助教としてHealth Sciences Leadership Program (HSLP)の授業を担当している。

## Quest for Health Equity

As a medical student at TMDU, I backpacked around the world and witnessed vast disparities in health both within and across the countries I visited. Feeling helpless, I desperately wanted to gain the clinical skills necessary to provide healthcare in these areas as well as to help train local healthcare providers, so that I could contribute to better health outcomes for people living in underserved regions.

Now as an obstetrician/gynecologist, I am pleased to be able to perform operations, assist with the birth of new lives, and teach young doctors. However, in the field of global health, where health challenges are complex

and broad, abundant knowledge of clinical medicine alone cannot relieve patients' suffering. Clinical practice is based on the assumption that people in need of healthcare have access to medical facilities and to drugs and medical technology when they need them. In HSLP, we create a student-centered learning environment through interactive lectures and discussions, and utilize a bio-social approach—one that incorporates sociological, philosophical, political, and economic perspectives—to teach students to identify and critically analyze the causes of health inequity and to seek effective solutions to these challenges.



春山 怜

Rei Haruyama

2008年東京医科歯科大学卒業。在学中ハーバード臨床実習派遣生として学生主体の米国式医学教育を経験する。2009年より東京医科歯科大学医学部附属病院周産女性診療科に所属し、JAとりで総合医療センター等で臨床に従事。日本産婦人科学会産婦人科専門医、一児の母。診療に加え、2013年7月よりグローバルキャリア支援室特任助教としてHealth Sciences Leadership Program (HSLP) および海外留学派遣前教育を担当している。

本学は、TMDU型グローバルヘルス推進人材育成構想において「地球規模での健康レベル向上への挑戦」をスローガンに、「ガバナンス体制強化」「教育改革」「海外拠点を活用した集学的グローバルヘルス研究・教育・国際貢献活動の展開」という3つの柱を軸に取り組む計画です。

中でも「教育改革」については、グローバル人材育成推進事業で取り組んだ「ボトムアップ」と「リーダー育成」の学部改革に、入試改革や大学院改革を加えて、さらなるプログラムの充実を図ります。海外拠点では、2016(平成28)年度の開講を目標に、チリ、タイとのジョイントディグリープログラムの準備も進行中です。

そのためのガバナンス体制の強化として、大学全体の教育改革を担う組織

TMDU型グローバルヘルス推進人材育成構想では、ガバナンス、教育、海外拠点を視野に入れて国際化を推進する。中でも、新設する統合教育機構を軸とした教育改革を中心に、グローバル人材育成の取り組みについて聞いた。



グローバルキャリア支援室室長  
高田和生 教授

## TMDU型グローバルヘルス推進人材育成構想を推進する3つの柱

全学的なグローバルヘルス  
活動推進のための  
ガバナンス体制強化

グローバルヘルス  
推進人材育成のための  
教育改革

海外拠点を活用した  
集学的グローバルヘルス研究・  
教育・国際貢献活動の展開

ローバルヘルスリーダー養成コース（修士／博士）を新設します。日本国内はもちろん、アジア諸国から優秀な学生を募り、国際的な医療機関、研究機関などで活躍できる人材の育成を目指します。WHO（世界保健機関）などのインターンシップ参加支援などを通して、具体的なロールモデルを示し、国際的なキャリア構築の支援も進める予定です。

本学の大学院は、すでに国内の医療系大学院としては最多となる197人に上る外国人留学生が在籍しています。さらに今後10年間で倍増し、全大学院生の25%まで伸ばすことが目標です。単に留学生数を増やすだけでなく、学部学生との交流機会も増やすなど、学内の環境でも国際性を高めます。学部教育におけるHSLPなどのグローバル教育の取り組みにチューターとして参加した大学院外国人留学生からも、「日本人学生と活発な議論ができて新鮮だった」と好評でした。日本人学生からは、留学生の発言レベルの高さが大いに刺激になったといった声が聞きました。

日本国内とアジア諸国の優秀な人材が、将来、グローバルヘルスを牽引するリーダーになることに期待します。



# 世界大学ランキングと東京医科歯科大学

## 医学分野のランキングで国内第4位の高評価 (2014年度世界大学ランキングより)

### 世界大学ランキングとは

現在、世界各国の高等教育調査機関、報道機関、教育研究機関などが大学を対象にランキングを公表している。評価項目は、研究者の論文発表実績や受賞歴、教員数と学生数の割合など様々。これら大学ランキングの情報は、受験生の進路決定や、研究パートナーを広く世界に求める

研究機関、企業のほか、世界における自校の位置づけを分析し、その特徴や実績を広報するデータとしてもしばしば用いられている。

この大学ランキングについては政府の教育再生実行会議からの第三次提言(2013年5月28日)でも「今後10年間で世界大学ランキングトップ100に10校以上をランクインさせること」が目標の一つとして明記

2014年度世界大学ランキング:総合、医学分野 本学の順位

|                  | 世界順位    | 国内順位 |
|------------------|---------|------|
| QS世界大学ランキング(医学)  | 101-150 | 4    |
| THE世界大学ランキング(総合) | 276-300 | 8    |
| QS世界大学ランキング(総合)  | 294     | 12   |

QS世界大学ランキング:総合 本学の項目別スコア

| 項目(配点)                 | スコア  |
|------------------------|------|
| 大学教員からの研究についての評判 (40%) | 18.7 |
| 雇用者からの教育についての評判 (10%)  | 11.9 |
| 学生あたりの教員数 (20%)        | 100  |
| 教員あたりの論文被引用数 (20%)     | 60.2 |
| 全教員に占める外国人数員比率 (5%)    | 5.4  |
| 全学生に占める外国人学生比率 (5%)    | 17.1 |

QS世界大学ランキング:医学分野 国内大学の比較

| 世界順位    | 国内順位* | 総合スコア* | 大学名      |
|---------|-------|--------|----------|
| 20      | 1     | 81.8   | 東京大学     |
| 35      | 2     | 77.3   | 京都大学     |
| 51-100  | 3     | 74.2   | 大阪大学     |
| 101-150 | 4     | 68.6   | 東京医科歯科大学 |
| 101-150 | 5     | 66.7   | 名古屋大学    |
| 101-150 | 6     | 66.2   | 慶應義塾大学   |
| 101-150 | 7     | 66.0   | 東北大学     |
| 151-200 | 8     | 64.9   | 九州大学     |
| 151-200 | 9     | 60.9   | 北海道大学    |
| 151-200 | 10    | 60.4   | 筑波大学     |

\*51位以下の個別順位・総合スコアは非公表。51位以下の大学の国内順位・総合スコアは、項目別スコアをもとに算出。

され、重要性は高まっている。

この度、スーパーグローバル大学創生支援の支援対象に採択された東京医科歯科大学でも、世界大学ランキングの順位向上を通じて、日本の高等教育の国際的競争力強化の一翼を担うことが期待されている。

### 東京医科歯科大学の評価

数ある世界の大学ランキングの中で代表的なものが「Times Higher Education 世界大学ランキング」「QS(クアカアレリシモンズ)世界大学ランキング」である。

現在、これらのランキングで東京医科歯科大学はどのような位置づけなのか見てみたい。

QS世界大学ランキング2014/15(2014年9月15日発表)の医学分野では、世界第101~150位、国内第4位にランクインした。これは医学の領域において、東京医科歯科大学の実績が世界で高く評価

された結果であるといえるだろう。医学以外の学術分野を含めた全分野の総合ランキングでは、世界の上位300大学に入っている。

一方、項目別のスコアを見ると、将来に向けた課題も見て取れる。QS世界大学ランキングでの項目別スコアでは、今後の注力する項目として、国際的な知名度向上、さらには質の高い研究活動の継続があることを示している。詳細なデータは、大学ウェブサイトの「医科歯科大をもっと知る」で公開している。

### 世界を先導する大学へ

大学ランキングの順位は、教育、研究、診療、国際交流、社会貢献など多岐にわたる大学の活動を一つの側面のみから評価したものにすぎない。とはいえ、大学ランキングにおける評価は社会が大学に求めるものを理解し、大学が社会的必要に應える活動が続いていくうえで有用なベンチマークの一つともいえる。

今後、東京医科歯科大学は、大学ランキングでの順位向上に向けた取り組みを通じて、国内はもとより、世界でも医療分野を先導する大学となることを目指している。

B